

南足柄市内の地震の石碑 (その 1)

神奈川県温泉地学研究所 平野 富雄

神奈川県西部に位置する南足柄市は、箱根外輪山の東麓に沿って市街が開け、現在の人口はおおよそ四万五千人である。外輪山の山裾から明神岳にいたる一帯は豊かな森林で覆われ、緑が大変豊かな地方都市である。この南足柄市を特徴づけるキャラクターは足柄山の金太郎であり、世界有数の写真フィルム工場であろう。街のあちこちに色々な石造物が見られるが、関東大地震にかかわる記念碑が数多く建てられていることに驚かされる。

市当局や市民の県西部地震についての関心は大変高く、早くから防災無線の活用に積極的で、特に各家庭への個別の設置に努力が払われている。



写真 1 下田隼人の碑

この南足柄市を訪れるには、市の東方を走る東名高速道路の大井松田インターチェンジ方面から車で、或いは東海道線小田原駅から電車によるかのいずれかが便利である。車でならば、大井松田インターチェンジから南足柄市方面にまっすぐに大井-関本線が延びているので大変分かりやすい。

酒匂川の橋を渡り、関本丘陵をうがつ下原トンネルをすぎると龍福寺交差点である。交差点の手前右手に龍福寺の境内があり、高くそびえる石碑がみてとれる。これが義民下田隼人の碑である (写真 1)。下田隼人は万治三年に直訴の罪で小田原藩によって処刑されたと言われている。隼人の直訴には寛永 10 年 (1633 年) の小田原地震が深く関わっていると思われるが、その話は別の機会にしたい。

交差点を右に折れると矢倉沢往還で、この道は足柄古道の道筋にあたっている。道路脇のあちこちに、いろいろな記念碑や句碑、石仏などが建っていて、往古の人の行き来がしのばれる。

川入堰碑（写真2）

苜野の集落を過ぎ、関場集落の入口の所に矢倉岳をバックにして人の背丈ほどの碑が建っている。これが川入堰の記念碑である。

川 入 堰 碑

神奈川県知事正四位勲三等清野長太郎篆額

北足柄村矢倉沢有川入堰其開鑿之由来不詳拋
口碑安政年間探川入分狩川之水別之云同六年
地大震水路梗塞用水全絶住民苦之懇請領主大
久保候起工漸復舊爾来村内関場及隣村一色部
落灌溉田畝供給飲料浴其潤澤經幾十星霜矣而
大正十二年九月一日地又激震家屋壊倒山地崩
潰死傷不少其慘害不可名状加之諛水路陷没忽
缺用用之便住民困憊達其極於是有志五十六名
組織耕地整理組合始復舊工事翌年九月十日竣
工其費金五萬八千五百圓徭役一千五百人水路
延長千八百間就中屬暗渠者千二百間施工最難
然纔一箇年而完成興廢田十二町歩復數十戸之
炊飯使住民安堵如故者可謂當事者戮力協心之
結果也頃日衆議将来該事績恐堙滅欲建碑記其
功請予文及快諾叙之傳于永遠云爾

大正十三年十一月

足柄上郡長從七位勲七等田中鉞雄撰並

（ただし、碑文は縦書きです。）

県西部地域では江戸時代初期よりほぼ70年毎に小田原直下を震源域とする地震が起き、その都度小田原城が壊れて修復されてきた。現在、この県西部地域では地震の再来に人々の関心が集まっているが、これは過去の歴史的事実に基づいているのである。

県内の各所に関東大地震に係わる記念碑が建てられているが、不思議な事に江戸時代の地震を記録した碑は小田原城内の元禄地震の碑以外はこれまで見あたらなかった。

この川入堰碑は関東大地震による被害の復旧を記念したものであるが、それより一つ前の地震の被害の事まで次のように書きとどめてあるのが興味深い。

「安政年間探川入分狩川之水別之云同六年地大震水路梗塞用水全絶住民苦・・・」

ただし、この地震は碑文によると安政六年に起きたことになっているが、これは嘉永六年が正しいのではなかろうか。幕末の嘉永から安政年間にかけての江戸、小田原、駿河にかけての東海道筋は、下に示すように大きな被害地震が続出している。

嘉永 6 年 2 月 2 日（1853 年 3 月 11 日）M6.7 嘉永小田原地震

小田原城破損。小田原の被害大きく、
領内の潰家 1000 余り。

死者 23 人。

安政 1 年 11 月 4 日（1854 年 12 月 23 日）M8.4 安政東海地震

安政 1 年 11 月 5 日（1854 年 12 月 24 日）M8.4 安政南海地震

安政 2 年 10 月 2 日（1855 年 11 月 11 日）M6.9 安政江戸地震



写真 2 川入堰碑

震災復興碑（写真3、4）

川入堰碑からさらに矢倉岳方面に進み、矢倉沢のバス停留所を右に曲がって内川沿いに内山方面に下ると道の右手に大きな記念碑が見えてくる。これが内山の震災復興碑である。

この碑については、すでに観測だより第8号（神奈川湿地研報告第11巻第1号、1979）に紹介した。しかし今回は碑文の一部しか収録しなかったため、今回ここにその全文を掲げさせて頂く事にする。今では、この碑は道路の片隅に追いやられ、すぐ近くまで建設資材の置場になっていて、大きな石材が高く積まれている。このままでは、やがてはこの石碑は人々から忘れられる運命にあるように思えて残念である。

震災復興碑

神奈川県知事正五位勲四等掘切善次郎題額

維時大正十二年九月一日関東地震亘一府六縣如我郡北足柄村山岳崩壊
耕地亀裂家屋倒壊五十八戸死傷十三名加交通杜絶用水欠乏電灯亦滅住
民失居所迫飢渴其惨害不可名状当局者連協議立策以救火急次加修理者役
場費千六百円隔離病舎費二千七百円北足柄小学校費二千四百円矢倉沢小
学校費千七百円翌年一月請官受指揮期三年間始復旧工事乃村道十五個所
橋梁八個所堤防二ヶ所此工費二万七千二百四十二円別設耕地整理組合整
理荒地内山組合員二百三十一名土地六十二町道水路六千七百間此工費十
六万三千五百四十四円平山組合員百二名土地三十八町道水路七千八百間
此工費四万七千七百九十円矢倉沢本村組合員八十五名土地三十二町道水
路三千五十間此工事費四万九千四百二十円地藏堂組合員二十五名土地七町道
水路千二百三十間此工費一万九千六百円川入組合員関場内二十九名土地五
町三段道水路千間此工費三万円又棚倉神社已改造内御前社先年社殿以帰
烏有企再建而関係者戮力以從事見工事之完成将在近頃日欲建碑実績傳于
永遠請予文仍敘其梗概

足柄上郡長正七位勲六等 田中鈿雄撰文

大正十五年六月

正八位勲八等長坂邨太郎書

（ただし、碑文は縦書きです。）



写真3 震災復興碑(1)

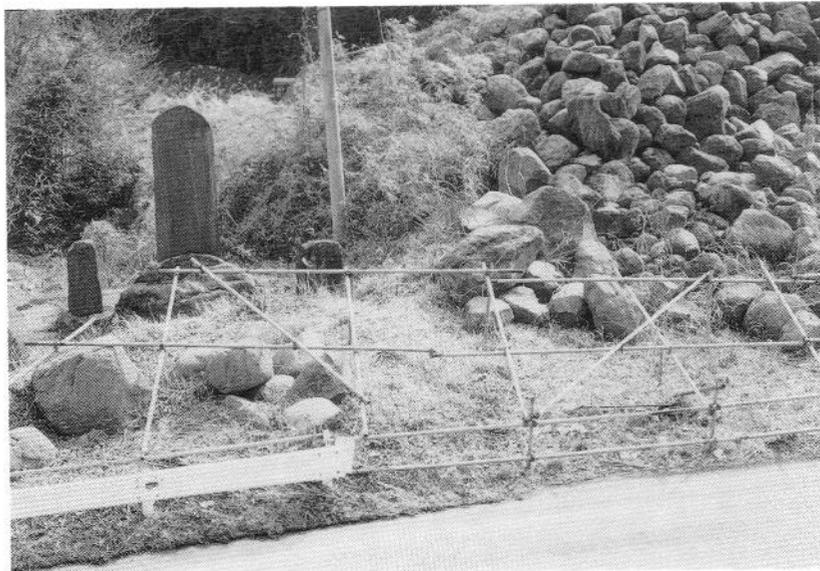


写真4 震災復興碑(2)